

## ぶっそくせき か ひ 仏足石と歌碑

市指定有形文化財（歴史資料）

漆山地区にある珍蔵寺の鐘楼しょうろうの手前左側に仏足石しゃか（釈迦の一对の足形を彫刻した石）とその歌碑があります。

珍蔵寺の仏足石は、明治 28（1895）年に珍蔵寺の第 15 代住職硯峯和尚せきほうが奈良県の薬師寺に行った際、仏足石とその歌碑の石刷り（紙をあて墨で写しとったもの）を同寺の管長かんちょう（宗派の代表者）からもらい受け、これらを長く伝えようと明治 34（1901）年に建てたものです。縦約 85cm、横約 115cm、高さ約 18cm の磨かれた石の上面に彫られており、その片足の寸法は、長さ約 50cm、横幅約 22cm と大きく、さまざまな文様が描かれています。

釈迦入滅にゅうめつ後（釈迦が亡くなった後）、インドの初期仏教では釈迦の像を彫ることは恐れ多いこととされたため、仏塔（釈迦の遺骨を納めた塔）や菩提樹ぼだいじゆ（釈迦が悟りを開く際に座った木）を模様化したもの、または法輪ほうりんず図（釈迦の説いた教えを車輪に例えた図）等を仏の存在を表す象徴として崇拝していました。その後、釈迦が生涯を通して説法をした足跡を石に刻み、礼拝の対象としたのが仏足石の起こりです。日本では約 200 余りの存在が知られ、大多数は江戸時代以降のものと言われています。

奈良薬師寺の仏足石は、日本で最古の天平勝宝 5（753）年に造られたもので、側面にはインドから日本に伝えられた由来や、見ると得られるご利益などが記してありますが、珍蔵寺の仏足石にはその記述は見られません。



仏足石の後ろには、自然石を半分割ったような縦約 197cm、横約 60cm、厚さ約 42cm の歌碑が建てられています。そこには、17 首の仏跡を讃える歌と 4 首の生と死に対する歌が書かれています。歌の形式は、57577 の短歌形式にさらに 7 音を加えた 575777 の 38 文字で、一字一音の万葉仮名で刻まれています。仏足石を訪ねるときに唱和しながら歩いたのではないかとされています。歴史の広がり  
と豊かさを感じさせてくれる仏足石とその歌碑です。

南陽市文化財保護審議委員 前田みゆき  
平成 30 年 10 月 1 日号 市報なんよう掲載